
Analyst MD 1.7.3 ソフトウェア

リリースノート



本書は SCIEX 機器をご購入され、実際に使用されるお客様にむけてのものです。本書の著作権は保護されています。本書および本書の一部分を複製することは、SCIEX が書面で合意した場合を除いて固く禁止されています。

本書に記載されているソフトウェアは、使用許諾契約書に基づいて提供されています。使用許諾契約書で特に許可されている場合を除き、いかなる媒体でもソフトウェアを複製、変更、または配布することは法律で禁止されています。さらに、使用許諾契約書では、ソフトウェアを逆アセンブル、リバースエンジニアリング、または逆コンパイルすることをいかなる目的でも禁止することがあります。正当とする根拠は文書中に規定されているとおりです。

本書の一部は、他の製造業者および/またはその製品を参照することがあります。これらには、その名称を商標として登録しているおよび/またはそれぞれの所有者の商標として機能している部分を含む場合があります。そのような使用は、機器への組み込みのため SCIEX により供給された製造業者の製品を指定することのみを目的としており、その権利および/またはライセンスの使用を含む、または第三者に対しこれらの製造業者名および/または製品名の商標利用を許可するものではありません。

SCIEX の保証は販売またはライセンス供与の時点で提供される明示的保証に限定されており、また SCIEX の唯一かつ独占的な表明、保証および義務とされています。SCIEX は、明示的・黙示的を問わず、制定法若しくは別の法律、または取引の過程または商慣習から生じるかどうかに関わらず、特定の目的のための市場性または適合性の保証を含むがこれらに限定されない、他のいかなる種類の保証も行いません。これらのすべては明示的に放棄されており、購買者による使用またはそれから生じる不測の事態に起因する間接的・派生的損害を含め、一切の責任または偶発債務を負わないものとします。

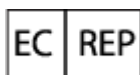
In Vitro 診断用です。製品は一部の国では入手できません。詳細な情報については、最寄りの営業担当者にお問い合わせいただくか、または sciex.com/diagnostics を参照してください。

Rx only.

ここに記載されている商標および / または登録商標は、関連するロゴを含め、米国および / またはその他の特定の国における AB Sciex Pte. Ltd.、またはその該当する所有者の所有物です(sciex.com/trademarks をご覧ください)。

AB Sciex™ はライセンスの下で使用されています。

© 2022 DH Tech. Dev. Pte. Ltd.



Leica Microsystems CMS GmbH
Ernst-Leitz-Strasse 17-37
35578 Wetzlar
Germany



AB Sciex Pte. Ltd.
Blk33, #04-06 Marsiling Industrial Estate Road 3
Woodlands Central Industrial Estate, Singapore 739256

IVD

CE

UK
CA

目次

第 1 章 : はじめに.....	4
本リリースノートの使用法.....	4
第 2 章 : バージョン 1.7.3 の新機能.....	5
バージョン 1.7.3 の新機能と機能強化.....	5
バージョン 1.7.3 の解決済みの問題.....	7
第 3 章 : 使用上の注意.....	12
アンチウイルス / バックアップソフトウェアに関するガイダンス.....	12
ファイルの暗号化に関するガイダンス.....	12
Analyst MD 1.7.3 ソフトウェア使用上の注意事項.....	13
第 4 章 : 既知の問題.....	21
監査証跡.....	21
構成 - 管理 / セキュリティ.....	21
構成 - Acquisition Method Editor.....	22
チューニングとキャリブレーション — Compound Optimization.....	23
チューニングとキャリブレーション - Instrument Optimization.....	23
チューニングとキャリブレーション - 手動チューニング.....	23
測定 - Acquisition Method Editor.....	24
測定 - メソッド / Batch Editor / Queue Manager.....	24
Explore.....	26
定量化.....	26
Analyst MD Software Reporter.....	27
インストーラー.....	28
周辺装置.....	28
ExionLC 2.0 シリーズ装置.....	28
Jasper システム、ExionLC システム、Shimadzu CL、および Shimadzu LC システム.....	29
CTC PAL / Leap 装置.....	31
Agilent 装置.....	31
付録 A : プログラムとユーティリティ.....	32
お問い合わせ先.....	33
お客様のトレーニング.....	33
オンライン学習センター.....	33
SCIEX サポート.....	33
サイバーセキュリティ.....	33
ドキュメント.....	33

お使いの LC-MS/MS システムに、SCIEX 製品をお選びいただきありがとうございます。液体クロマトグラフィタンデム質量分析 (LC-MS/MS) 機能を提供する Analyst MD1.7.3 ソフトウェアをお届けします。

リリースノートでは、Analyst MD1.7.3 ソフトウェアの機能とトラブルシューティングのガイドラインについて説明しています。これらのリリースノートは、本ソフトウェアについての理解および今後の参考のために使用してください。インストールおよびソフトウェアの互換性に関する情報については、『Software Installation Guide』のドキュメントを参照してください。

注: Analyst MD 1.7.3 ソフトウェアは、Windows 10 オペレーティングシステムでのみサポートされています。

本リリースノートの使用方法

現在お使いの Analyst MD ソフトウェアのバージョンと比較して、何が新しく、何が修正されたかを理解しやすいように、リリースノート (Analyst MD 1.7.3 ソフトウェア用) では、各ユーザーに関係のあるセクションのみを確認できるように構成されています。

使用上の注意 は必ずお読みください。このセクションは、特に Analyst MD 1.7.3 ソフトウェアで既知の問題に適用されます。

注: 旧バージョンの Analyst MD ソフトウェアの拡張機能、修正された問題、および既知の問題を確認するには、旧バージョンのリリースノートを参照してください。

注: 括弧内の数値は、当社の内部追跡システムにおける各問題 / 機能の参照番号です。

バージョン 1.7.3 の新機能

2

本項では、Analyst MD 1.7.3 ソフトウェアの機能強化と修正について説明します。過去にリリースされた Analyst MD ソフトウェアの機能強化と修正については、該当するバージョンのソフトウェアに付属するリリースノートを参照してください。

バージョン 1.7.3 の新機能と機能強化

以下の機能および機能強化が利用できます。

スケジュールされたイオン化

Analyst MD 1.7.3 ソフトウェアは、機器の汚染リスクを低減するための新機能「スケジュールされたイオン化」をサポートしています。また、エレクトロスプレーイオン化 (ESI) と大気圧化学イオン化 (APCI) の両モードをサポートしています。

電子ライセンスのサポート

Analyst MD 1.7.3 ソフトウェアは、ノードロックライセンス (使用を 1 台のコンピュータに限定) をサポートしています。

Office 365 へのサポート

Analyst MD 1.7.3 ソフトウェアは、Office 365 をサポートしています。Microsoft Office 2010 へのサポートは終了しています。

ADD 1.3 へのサポート

Analyst MD 1.7.3 ソフトウェアには、Analyst MD ソフトウェアの LC 装置制御アプリケーションである Analyst Device Driver (ADD) 1.3 へのサポートが追加されています。詳細な情報については、Analyst Device Driver (ADD) 1.3 のドキュメントを参照してください。

Shimadzu LC-40 システムへのサポート

Shimadzu LC-40 システム (蛍光検出器 RF-20AXS を使用するシステム) をサポートするようになりました。

新 LC ドライバを使用する Shimadzu LC-20 および LC-30 システムのサポート

PDA を含む Shimadzu LC-20、LC-30 システムを Integrated System Shimadzu LC-20/30 Controller で制御できるようになりました。

ExionLC 2.0 のサポート

Diode Array Detector (DAD)、Multiwavelength Detector、Wash System、個別バルブ制御オプション付きのカラムスイッチングなど、ExionLC 2.0 システムをサポートするようになりました。

LC 補助トレースをデータファイルと一緒に保存することによるトラブルシューティングの迅速化

圧カトレースを含む補助トレースは、有効にすると、Jasper LC、ExionLC、ExionLC 2.0、Integrated System Shimadzu LC Controller または Integrated System Shimadzu LC-20/30 Controller、および Shimadzu LC-40 システムの測定データファイルとともに保存されます。ソフトウェアとともにインストールされている *ラボ管理者ガイド* を参照してください。

新しい注入カウンタ機能

注入カウンタ機能は、バッチ停止を防ぐためのプロアクティブなカラムメンテナンスを目的に実装されました。ソフトウェアとともにインストールされている *ラボ管理者ガイド* を参照してください。

管理者以外のアカウントを使用し、MECM などの展開ツールで行うソフトウェアインストールに対するサポート

Microsoft Endpoint Configuration Manager (MECM) などの展開ツールで、管理者以外の SYSTEM アカウントを使用して、リモートで安全にソフトウェアのインストールをプッシュする機能をサポートしています。

Jasper、ExionLC、Shimadzu LC の構成を個々のハードウェアプロファイルで保存する機能をサポート

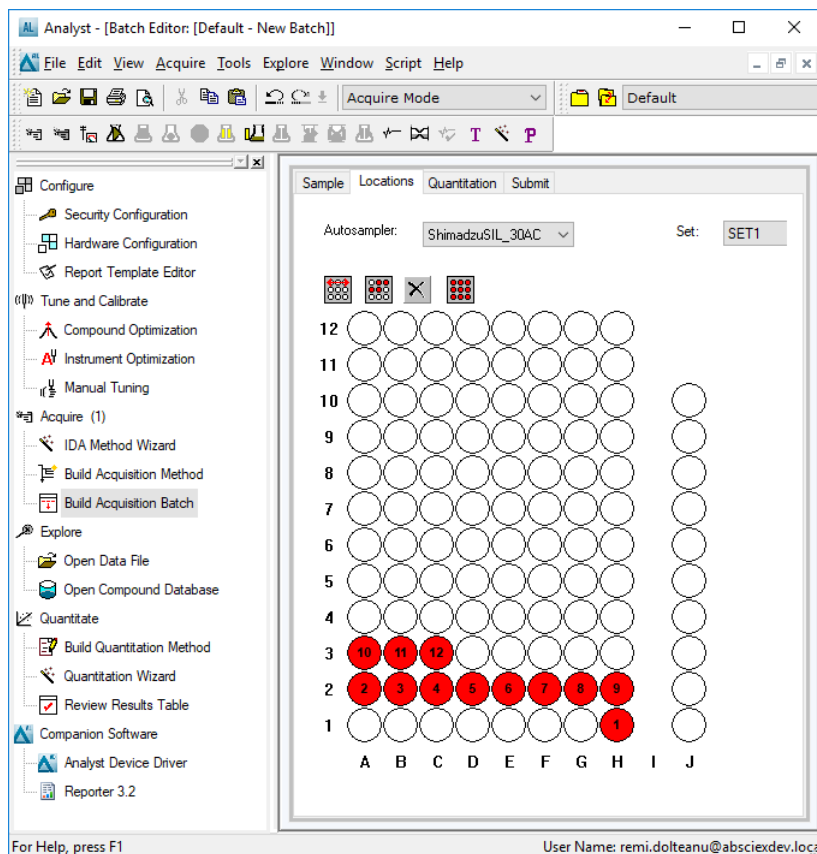
バージョン 1.7.3 以降で作成されたハードウェアプロファイルでは、MIMIC2 ドライバで制御されるすべてのデバイスの LC 構成がハードウェアプロファイルごとに保存され、ハードウェアプロファイルごとに異なる LC 構成を使用できるようになっています。これは、Jasper LC、ExionLC のほかに、Integrated System Shimadzu LC-20/30 Controller で構成された Shimadzu LC-20 と Shimadzu LC-30 システム、および Shimadzu 40 システムを含みます。これらの LC システムのいずれかを使用して異なる LC 構成を含むハードウェアプロファイルを切り替える場合、ユーザーは LC を再設定する必要がありません。

Integrated System Shimadzu LC Controller で構成される Shimadzu SIL-30ACMP および Shimadzu SIL-30AC オートサンプラー用の新しいプレートレイアウトへのサポート

プレート左下から水平方向に英数字で番号を振る 96 ディープウェルプレートレイアウトに対応しています。[図 2-1](#) を参照してください。Shimadzu SIL-30ACMP または Shimadzu SIL-30AC オートサンプラーに本新規プレートを選択した場合、以下の内容が適用されます。

- Batch Editor 内の各位置には数値が割り当てられ、水平方向に配置されています。
- Batch Editor は、下方向にコピーする機能をサポートしています。
- Batch Editor では、txt ファイルや csv ファイルへのエクスポートが可能です。
- Batch Editor では、txt ファイルや csv ファイルからのインポートが可能です。

図 2-1 : Batch Editor: Locations タブ



注: このサポートは **Analyst 1.7.2 Patch for Shimadzu LC30 Plate Layout** で初めて追加されました。(AN-1571)

バージョン 1.7.3 の解決済みの問題

本リリースにおいて以下の問題が修正されました。

定量監査証跡で、変更の説明に Samples という単語が誤って追加されていた

定量監査証跡で、分析対象物質または内部標準物質の濃度または算出濃度の単位を変更すると、**Change Description** で「濃度 / 算出濃度の単位が...に変更されました(The concentration/calculated concentration units were changed to...)」という文章の前に "Samples" という単語が誤って追加されていました。(AN-430、AN-2259)

平衡化後であっても、Jasper、ExionLC、または Shimadzu LC のカラムオープン温度がセットポイントに達する前にバッチ測定を開始すると、取得が開始されなかった

システムを平衡化するために Jasper、ExionLC または Shimadzu LC のカラムオープンを含む測定メソッドを使用し、カラムオープン温度がセットポイントに達していなかった場合、ツールバーで **Start Sample** を選択するとバッチ測定が開始されませんでした。(AN-1670)

ファイル名にピリオドなどの特殊文字を使用すると、ファイルが破損することがあった

ファイル名にピリオドなどの特殊文字は使用できませんでした。たとえば、Results Table のファイル名に `tes.t` は使用できませんでした。ファイル名に特殊文字を使用すると、ファイルが破損する恐れがありました。(AN-1697)

定量化メソッドのタイムスタンプが、メソッドオープン時に更新された

定量化メソッドを開いた後、変更を保存せずに閉じた場合、定量化メソッドのタイムスタンプがメソッドを開いた時刻に変更されました。(AN-1715)

Results Table から一度に多くのサンプルを削除すると、Analyst MD ソフトウェアが応答しなくなる場合がある

Results Table を作成した後、Results Table から一度に 35 以上のサンプルを削除すると、Analyst MD ソフトウェアが応答しなくなる問題がありました。(AN-1527)

ExionLC PDA 検出器または Shimadzu CL 検出器を 2D モードで使用して測定を行うと、測定が停止することがある

ExionLC PDA 検出器または Shimadzu CL 検出器を使用すると、測定が停止する場合があります。これが発生すると、Analyst MD ソフトウェアでのサンプルの測定が中断された後、キューが停止しました。この問題は、PDA Detector を 2D モードで使用した場合に発生しました。そのため、PDA Detector を 3D モードを使用することで、この問題が発生する可能性を最小限に抑えることが推奨されました。(AN-718)

Jasper、ExionLC または Shimadzu CL システム装置で、キューオプション Fail whole batch in case of missing vial を選択していない場合でも、バイアルがないとバッチが一時停止していた

バイアル位置が不明なサンプルを含むバッチを送信し、キューオプション Fail whole batch in case of missing vial を選択していなかった場合、そのサンプルは測定エラーとなり、バッチ内の残りのサンプルは一時停止していました。(AN-965)

Windows 10 コンピュータの Batch Editor で .txt ファイルを読み込むことができなかった

Windows 10 コンピュータでは、Batch Editor で txt ファイルをインポートするときに、予期しない列名に関するメッセージが表示されました。YES または NO をクリックすると、txt ファイルの情報がすべてカスタム列に入力されたり、バッチファイルをインポートできなくなったりしました。(AN-1207)

Analyst MD 1.6.3 HotFix 2 で修正された以下の問題は、Analyst MD 1.7.3 ソフトウェアに含まれています:

質量較正のみを調整するオプションで、Start Over を使用して機器の最適化を再度実行すると、エラーが発生する可能性があった

Instrument Optimization で、Results Summary ダイアログの Start Over オプションを使用して、Adjust mass calibration only オプションで機器の最適化を再度実行すると、最適化の終了時にランタイムエラーが発生し、結果が正しく表示されませんでした。(AN-1582)

Windows 10 オペレーティングシステムで構成されたワークステーションで、Batch Editor に txt ファイルをインポートする際にエラーが発生した

Windows 10 オペレーティングシステムで構成されたワークステーションの Batch Editor に txt ファイルをインポートすると、予期しない列名に関するメッセージが表示され、ファイルをバッチに正常にインポートできませんでした。(AN-1787)

誤ったプロジェクトに監査証跡イベントが記録される場合がある

Analyst MD ソフトウェアでクロマトグラムまたは Results Table を開いた後に、**Projects** リストから別のプロジェクトを選択し、開いているクロマトグラムまたは Results Table を印刷すると、印刷イベントが現在選択されているプロジェクトの Audit Trail に誤って記録されました。(AN-389)

事前定義済みの理由が選択できないことがあった

一部の Audit Trail イベントにのみ監査マップにリストされた事前定義済みの理由があった場合、このいずれかのイベントが発生すると、変更理由リストで適切な事前定義済みの理由が選択できないことがありました。すべての Audit Trail イベントに監査マップにリストされた事前定義済みの理由があった場合でも、イベントが発生すると、変更理由リストでは対応する一部の事前定義済みの理由のみが選択可能になりました。(AN-733)

Windows 10 オペレーティングシステムを搭載したコンピュータで FIA 最適化が失敗する場合があった

Windows 10 オペレーティングシステムを搭載したコンピュータでは、IS または TEM などのソースおよびガスパラメータを最適化すると、FIA 最適化が失敗する場合があります。(AN-1453)

特定のイベントの Audit Trail に Change Description の情報がなかった

サンプルを Results Table に追加または Results Table から削除する際、ユーザーがサンプルを選択する前に **OK** をクリックすると、Audit Trail のこのイベントの **Change Description** 列が空白になりました。ユーザーが **OK** をクリックする前に 1 つ以上のサンプルを選択していた場合は、**Change Description** の情報が正しく記録されました。(AN-1494)

Instrument Optimization Results にスペクトルがなかった

Windows 10 を搭載し、特定の Windows 更新パッケージで更新を行ったコンピュータでは、Instrument Optimization Results ファイルに一部のスペクトルが含まれないことがありました。(AN-1522)

ユーザーが Mixed Mode で Analyst MD ソフトウェアにログオンすると、Audit Trail に誤ったユーザー情報が記録された

Windows 10 オペレーティングシステムを搭載したシステムでは、Windows ユーザープロファイルの削除後、またはプロファイルの作成前にユーザーが Mixed Mode で Analyst MD ソフトウェアにログオンした場合、以前に Analyst MD ソフトウェアにログオンしたユーザーが Analyst MD ソフトウェアで現在ログオン中のユーザーとして識別されました。さらに、Audit Trail に誤ったユーザー情報が記録されました。(AN-1575)

外部オートサンプラーで使用する ExionLC ポンプが、オートサンプラーがエラーのために停止した後も動作を続けました

ExionLC ポンプを、外部の非 ExionLC オートサンプラーとともに測定メソッドで使用した場合、オートサンプラーがエラーのために停止しても、ExionLC ポンプは動作し続けました。(AN-1601)

Analyst MD 1.6.3 HotFix 1 で修正された以下の問題は、Analyst MD 1.7.3 ソフトウェアに含まれています:

定量化メソッドの変更に伴いピーク領域が変化しなかった場合に、Audit Trail がピーク領域の 0% 変化を記録しなかった

Audit Trail は定量化メソッドの変更イベントを記録しましたが、メソッドを変更してもピーク領域が変化しない場合には、結果(0%変化)は記録されませんでした。(AN-723)

Instrument Audit Trail にログイン失敗イベントが誤って記録された

Analyst MD ソフトウェアへのログオン失敗イベントが、Instrument Audit Trail に "user successfully logged out" として誤って記録されました。また、Mixed Mode では、Instrument Audit Trail はログイン失敗時のユーザー名ではなく、Windows のログインユーザー名も記録しました。(AN-763)

キューオプション Fail whole batch in case of missing vial を選択していなくても、バイアルがないとバッチが一時停止していた

Jasper、ExionLC、または Shimadzu CL システムを使用している場合、Queue Options ダイアログで **Fail whole batch in case of missing vial** オプションを選択しているかどうかにかかわらず、注入用バイアルがない場合、測定バッチが一時停止していました。(AN-965)

Analyst MD ソフトウェアの Method Editor で Agilent 1260 ポンプの Left Solvent または Right Solvent を設定できなかった

有効なハードウェアプロファイルに Agilent 1260 ポンプが含まれていた場合に、A1 または A2、B1 または B2 の選択オプションがなかったため、ユーザーは Left Solvent または Right Solvent を設定できませんでした。(AN-1356)

ExionLC マルチプレートオートサンプラーおよびラックチェンジャーを使用するすべての ExionLC オートサンプラーでは、Control Rack からのサンプル測定が機能しなかった

ExionLC マルチプレートオートサンプラーまたはラックチェンジャーを使用していた場合、バッチ内のサンプルについて Control Rack からのバイアル位置(バイアル位置 20001 ~ 20010)を選択していると、このサンプルの測定が停止しました。(AN-1420)

Shimadzu マルチプレートオートサンプラー、およびラックチェンジャーを使用するすべての Shimadzu オートサンプラーでは、Control Rack からのサンプル測定が機能しなかった

Shimadzu マルチプレートオートサンプラーまたはラックチェンジャーを使用していた場合、バッチ内のサンプルについて Control Rack からのバイアル位置(バイアル位置 20001 ~ 20010)を選択していると、サンプルの測定が停止した。(AN-1421)

Shimadzu ラックチェンジャーまたはマルチプレートオートサンプラーを使用していた場合、平衡化ができなかった

Shimadzu ラックチェンジャーまたはマルチプレートオートサンプラーを使用するメソッドでシステムの平衡化を試みると、ポンプおよびカラムオープンがメソッドの設定を認識しないため、平衡化できませんでした。(AN-1451)

Shimadzu SIL 20A 用ラックチェンジャーまたは Shimadzu SIL-20A XR オートサンプラーを使用する測定メソッドでは、バッチを送信できなかった

Shimadzu SIL 20A または Shimadzu SIL-20A XR オートサンプラー用のラックチェンジャーを使用する測定メソッドの場合、**Submit** ボタンは使用できませんでした。メソッドが無効であり、バッチに記載された **Plate Code** がメソッドで選択された **Sample Rack** に一致しないことを示すメッセージが表示されました。(AN-1437)

Jasper、ExionLC、または Shimadzu CL LC システムを含む LC-MS 測定メソッドは、初回のみしか正しく印刷されない可能性があった

LC-MS 測定メソッドに Jasper、ExionLC、または Shimadzu CL LC システムが含まれていた場合、メソッドを開いた後に **Print Pane** を最初に使用した際にはメソッドが正しく印刷される場合がありますでしたが、その後の印刷時にはメソッドの LC 部分が印刷されない可能性があります。(AN-1074)

本ソフトウェアの使用に伴う既知の問題、制限、重要な注意情報について以下にリストします。Analyst MD ソフトウェアには、このセクションに記載されている以外にも、問題や制限がある可能性があります。他の問題について判明した場合は、SCIEX までお知らせください (sciex.com/request-support)。

Analyst MD ソフトウェアが応答しなくなった場合は、通常、ソフトウェアを再起動すれば解決します。それでも解決しない場合は、AnalystService とデバイスドライバを確実に再起動させるため、コンピュータを再起動してください。

注意: データ損失の可能性: ローカルドライブにデータを取り込みます。ネットワークでデータを取り込む場合、取得中にネットワーク接続が中断されるとデータの完全性が失われる可能性があります。

アンチウイルス / バックアップソフトウェアに関するガイダンス

広く用いられているアプリケーションの多くにおいて、リアルタイム保護を無効にするか、または特定のファイルタイプ (rdb、wiff、wiff.scan など) を無視するよう設定できます。このように設定しないと、測定に失敗したり、測定が完了するまで予定よりも時間がかかることがあります。

一般的に、Analyst MD ソフトウェアにインストールされたアンチウイルス / バックアップソフトウェアは、リアルタイムスキャンと Analyst Data フォルダーへのファイルのアーカイブが無効になるよう設定しなくてはなりません。詳細な情報については、[サイバーセキュリティ](#)を参照してください。

以下のプログラムのリストは、リアルタイムスキャンの対象から除外します。

- C:\Program Files(x86)\Analyst
- D:\Analyst Data

Agilent Infinity II および関連する Analyst MD ソフトウェア用の Device Driver を使用している場合:

- C:\Program Files (x86)\AB SCIEX\AnalystDeviceDriver

SCIEX 製品のサイバーセキュリティに関する最新のガイダンスについては、sciex.com/productsecurity を参照してください。

ファイルの暗号化に関するガイダンス

ハードドライブのコンテンツを暗号化するソフトウェアを使用する際には、Analyst Data フォルダーを暗号化しないよう注意してください。このフォルダーを暗号化すると、測定に失敗したり、データファイルが破損したりする恐れがあります。

Analyst MD 1.7.3 ソフトウェア使用上の注意事項

少なくとも 1 週間に 1 度はコンピュータを再起動することをお勧めします。

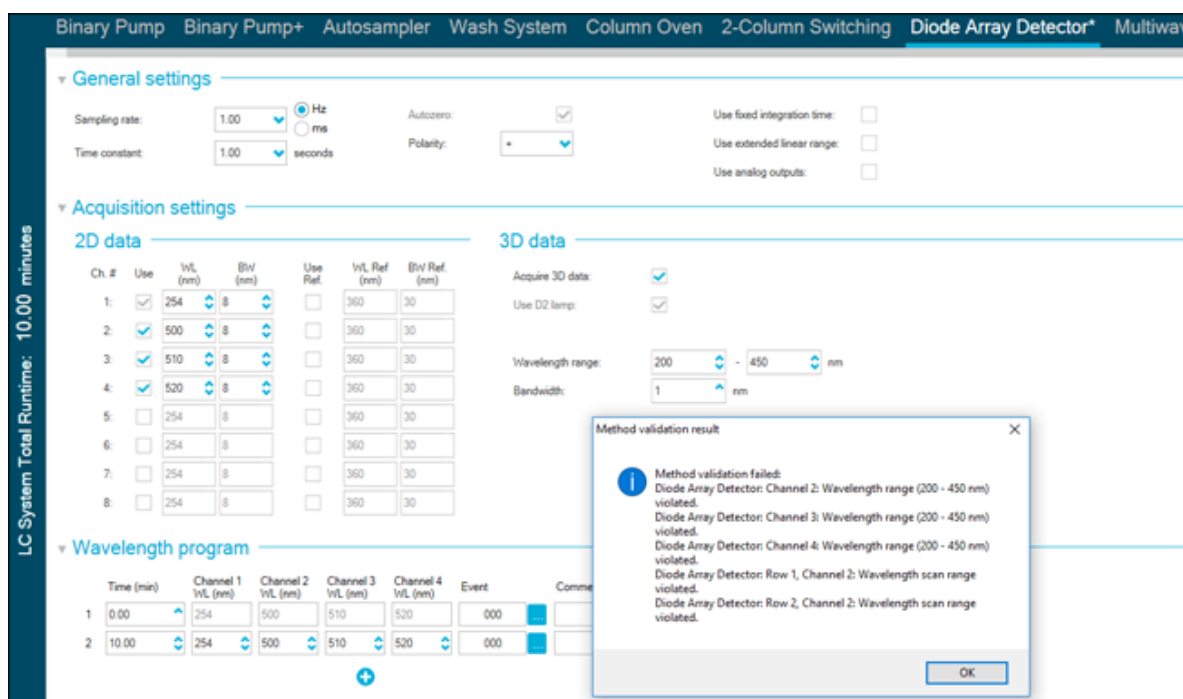
- Analyst MD 1.6.3 HotFix 3 より、About Analyst MD ダイアログのソフトウェアバージョン情報を、ビルド番号なしで以下の形式で表示するように変更しました。
 - Analyst MD ソフトウェア
 - 公開バージョン: 1.6
 - フルバージョン: 1.6.3 (1.6.3 HotFix 3)
- File Explorer で Analyst MD ソフトウェアのファイルを追加 / 削除しないでください。そうしたイベントは、Analyst MD ソフトウェアの監査証跡で監査されません。(AN-967)
- メソッドやバッチファイルを上書きする権限のないユーザーがファイルを上書きしようとした場合、同じファイル名の末尾に数字を付加して新しいファイルのインスタンスが作成されます。(AN-2688)
- ネットワークルートディレクトリに `API Instrument` という名前のプロジェクトを作成しないでください。これを行うと、機器の監査証跡イベントが、ローカルの `API Instrument` プロジェクトではなく、ネットワーク上の `API Instrument` プロジェクトに記録されるようになります。(AN-2290)
- Analyst MD バッチエディタでバッチファイルをインポートするには、インポートする列数が 255 以下であることを確認してください。また、インポートするテキストファイルの 1 データ行の文字数は 2000 文字以下である必要があります。(AN-1146)
- Analyst MD ソフトウェアでは、ユーザー名に特殊文字 \$ と % は使用できません。ユーザー名には、これらの特殊文字を使用しないでください。(AN-2369)
- Analyst MD ソフトウェアでは、Shimadzu PDA または Agilent DAD を使用して 2D またはシグナルデータモードで測定する場合、参照チャンネルを選択した場合、それを含めて最大 5 チャンネルまでしかサポートされません。(AN-1796)
- Shimadzu PDA、ExionLC PDA、または ExionLC 2.0 DAD を使用して測定を行う場合、Analyst MD ソフトウェアのデータには、測定メソッドで 3D を選択しているかどうかによって、2D データまたは 3D データのいずれかが格納されます。3D を選択した場合、メソッドで 2D も選択していても、3D データのみがデータとして保存されます。(AN-1148)
- 定量化メソッドの MRM トランジションの Q1 質量と Q3 質量は、測定メソッドのものと同じにする必要があります。処理するデータファイルの測定メソッドとわずかに異なる測定メソッドで測定した代表サンプルを使用して作成した定量化メソッドでデータファイルを処理した場合、分析試料に対して誤ったトランジションが処理されることがあります。たとえば、ある特定のトランジションが定量化メソッドと測定メソッドでわずかに異なり、測定メソッドの別のトランジションが定量化メソッドのこのトランジションとほぼ同じである場合、このようなことが起こる可能性があります。(AN-2131、AN-2314)
- Shimadzu LC 40 オートサンプラーでプレートチェンジャーを構成した場合、同一バッチ内の異なるサンプルに対して、**Rack Code** カラムで 3 プレートラックとプレートチェンジャーを両方選択することはできません。バッチ作成時には、3 プレートラックにプレート位置 1、2、もしくは両方を使用するか、またはプレートチェンジャー内のプレートのみを使用します。(AN-2074)
- SCIEX 4500MD および Citrine システムのデフォルト CUR 設定は、機器の汚染リスクを低減するために 35 に変更されました。

使用上の注意


- Analyst MD ソフトウェアのファイル名の先頭には「-」などの特殊文字を使用しないでください。これは、データファイル、メソッドファイル、結果表ファイルを含む(ただし、これらに限定されません)ファイルに適用されます。ファイル名の先頭には英数字を使用することを強くお勧めします。(AN-2430)
- Analyst MD ソフトウェアバージョン 1.6.3 およびそれ以前のバージョンでは、監査証跡の **Full User Name** 列には、Windows Server Active Directory に格納されているユーザーアカウントの **Display Name** が表示されました。Analyst MD ソフトウェアのバージョン 1.7.3 では、監査証跡の **Full User Name** 列には、Windows Server Active Directory に格納されているユーザーアカウントの **Full Name** が表示されました。ユーザーアカウントの **Display Name** と **Full Name** は通常同じですが、必ずしも同じである必要はありません。ネットワーク管理者は、それらを区別することができます。(AN-2447)
- 各測定メソッドはハードウェアプロファイルに固有のものです。
 - ユーザーが特定の LC 構成設定(たとえば ExionLC ポンプの溶剤バルブ)のためにハードウェアプロファイルを編集する場合、編集したハードウェアプロファイルをアクティブ化した後、元のハードウェアプロファイルで作成した測定メソッドを再度保存する必要があります。また、LC ハードウェアの設定は、ハードウェアプロファイルで選択した LC ハードウェアと一致している必要があります。元のハードウェアプロファイル LC 設定で作成したメソッドを、現在の変更後のハードウェアプロファイル LC 設定で測定に使用した場合、LC ハードウェアの設定によっては、このメソッドによるデータ取得に元のハードウェアプロファイル LC 設定が使用される可能性があります。これは、ハードウェアプロファイル LC の設定が、Method Editor の一部でないにもかかわらず、測定メソッドに保存されるためです。(AN-2455)
 - ユーザーが Shimadzu LC-20 シリーズのオートサンプラーを使用するハードウェアプロファイルを編集し、**Rinse Pump Installed** チェックボックスのチェックを外した場合には、元のハードウェアプロファイルを使用してこのリンスモード(吸引前、吸引後、吸引前後)のいずれかのオプションを用いて作成した測定メソッドを、ハードウェアプロファイルを有効にした後で必ず再度保存してください。(AN-1143)
- 統合システム Shimadzu LC Controller で制御する Shimadzu LC システムにおいて、Analyst MD ソフトウェアバージョン 1.6.3 以前のバージョンでは内部洗浄が正しく動作しませんでした。不具合は Analyst MD ソフトウェアバージョン 1.7.3 で修正されました。修正前と修正後の Analyst MD ソフトウェアバージョンで使用した場合、測定メソッドに内部洗浄モードを使用すると保持時間がずれることが予想されます。
- Analyst Device Driver (ADD) メソッドの停止時間が MS 停止時間と異なる場合は、**StopTime** の時間オプションを選択し、希望する停止時間を入力する必要があります。**Timetable** で勾配(グラジエント)が定義されていても、デフォルトオプション **As Injector/No Limit** は使用しないでください。デフォルトオプションを使用すると、ADD で制御されている LC は MS 停止時間に LC メソッドの実行を停止します。(AN-2586)
- 以下の注意事項は、ExionLC 2.0 システムに適用されます。
 - クールオープン温度を使用する場合は、最低温度として 5.5 °C の設定値を推奨します。安全下限値、5.0 °C を設定値に使用しないでください。5.0 °C を下回る変動はカラムオープンエラーの原因になります。上限値についても同様です。カラムオープンエラーを防ぐため、84.5 °C 以下など、安全上限値より低い設定値を使用してください。
 - 測定を開始する前に、検出器のランプが点灯していることを確認し、準備ができていることを確認します。

- LC Integrated System Detailed Status ウィンドウで溶剤レベルモニターを使用している場合は、各バッチ測定の前に現在の容量が正しいことを確認します。
- サンプルトレイをセットする際には、必ずソフトウェアのプレートレイアウトに従うか、ExionLC 2.0 ハードウェアユーザーガイドを参照してください。
- 高いサンプリングレートの 3D データモードで、ExionLC 2.0 システムのダイオードアレイ検出器(DAD)を含むメソッドで、同じデータファイルにサンプル測定データを取得する場合、データファイルのサイズが大きくなると、サンプル測定の完了が遅れることがあります。これは、Analyst MD ソフトウェアが、LC ドライバからすべてのデータポイントを収集しようとするためです。その結果、サンプル取得には、メソッドの実行時間よりもはるかに長い時間がかかるように見えることがあります。ただし、データは正しい実行時間を表しています。大量のデータを転送することによるサンプル間の遅延を避けるため、各サンプルを別々のデータファイルに取り込みます。
- DAD を搭載したシステムの LC メソッドを作成する際には、3D データモードが選択されていない場合でも、2D データモード用の Wavelength プログラムの各チャンネルおよび各行に定義されている波長が、3D データモード用に定義されている波長範囲内であることを確認してください。無効なメソッドが保存されたときに表示されるエラーメッセージの例は、図 3-1 を参照してください。行番号は、Wavelength プログラムの行を指します。

図 3-1 : ExionLC 2.0 DAD メソッドの無効を示すエラーメッセージ



- ハードウェアプロファイルがアクティブな状態でコンピュータをシャットダウンしたり、不意に再起動した場合、ExionLC 2.0 システムがコンピュータとの通信を失う可能性があります。すべての ExionLC 2.0 システムモジュールをオフにしたりオンにしたりして、再度検出します。(AN-1988)
- 物理的な修正を必要としない問題により、いずれかの ExionLC 2.0 システムモジュールがエラー状態になった場合、LC Integrated System Detailed Status ウィンドウのスタンバイボタ

ン()を使用してエラーを解除することができます。このボタンで LC モジュールの電源を切り、再び電源を入れることができます。ただし、ハードウェアプロファイルの無効化と有効化は必要です。まれに、この回復方法がうまくいかない場合がありますが、その場合はハードウェアプロファイルを無効にして、コンピュータの電源を切り、LC モジュールをすべてオフにしてからオンにして、再度コンピュータの電源を入れてください。

- バッチに前処理オプションが **Use first destination vial** に設定された LC メソッドが含まれている場合、そのバッチを再度実行する前、または同じ LC メソッドを別のバッチで使用する前に、最初の目的バイアルの位置をリセットする必要があります。システムの状態がスタンバイに変わったときや、ハードウェアプロファイルを無効および有効にしたときに自動的にリセットされます。また、ユーザーは以下の方法で最初の目的バイアルの位置をリセットできます。

1. LC Integrated System Detailed Status ウィンドウの Autosampler ペインの **Reset**

vials ()をクリックします。次に、**Reset destination vials** を選択します。

2. 1 つのサンプルを含むバッチで、最初の別な目的バイアルの位置を使用して送信します。

前処理に **Use first destination vial (FDV)** が選択されている場合は、最後の目的のバイアル位置(LDV)が、選択されたラックタイプとバッチに含まれるサンプル数(n)に対して有効であることを確認してください。それ以外の場合、バッチ測定は、無効な目的バイアル番号を持つサンプルで停止します。目的バイアルの位置は、常に前のサンプルの目的バイアルの位置に 1 を加えたものに等しくなります。

サンプル 1、2、3、4 の場合、目的バイアルの位置はそれぞれ FDV、FDV+1、FDV+2、FDV+3 となります。バッチに含まれるサンプル数が 30、バイアル位置が 11 ~ 40、FDV が 2×48 バイアルラックで 51 の場合、 $LDV = FDV + n - 1 = 51 + 30 - 1 = 80$ となります。

注: 予測されるすべての目的バイアルの位置にバイアルが存在することを確認してください。

- ハードウェアプロファイルを起動した後、システムがアイドル状態のまま放置され、システムが平衡化されていない、またはバッチが取得されていない場合、ExionLC 2.0DAD または Multiwavelength Detector の検出器ランプが点灯したままになります。検出器のランプの寿命を延ばすために、ハードウェアプロファイルを起動した直後にシステムを長時間アイドル状態にしないでください。システムを平衡化するか、システムを準備完了状態にしてから、システムを手動または自動でスタンバイ状態にします。(AN-2202)
- Jasper システムで **Wait Time** を x ($x=0, 1, \dots, 10$) に設定した場合、カラムオープンが設定温度に到達してから x 分間待機するまで測定は開始されません。ドライバソフトウェアがこのバージョンの Jasper システムでは、Method Editor の **Wait for temperature equilibration before run** チェックボックスが削除済みとなっています。
- ExionLC または Shimadzu CL システムで、デバイス上で **Wait Time** を x ($x=0, 1, \dots, 10$) に設定し、測定メソッドで **Wait for temperature equilibration before run** チェックボックスをオンにした場合には、カラムオープンが設定温度に達してから x 分経過するまで測定が開始されません(x が 0 以外の場合)。ただし、 $x=0$ のときにはカラムオープンが設定温度に達したら、待機時間なしで直ちに測定が始まります。これは意図的な設計です。バッチの開始前に、システムが平衡になっていることを確認してください。

- Shimadzu LC-40 オートサンプラーにプレートチェンジャーが装着されている場合、以下の方法でバッチを保存、送信する際には、**3-Plate Rack** で **Plate # 3** が選択されていないことを確認してください。

- Analyst MD ソフトウェアを使用する
- 特定業種向けのアプリケーションを使用する

このプレート位置は、サンプルトレイをプレートチェンジャーからオートサンプラーに移動してサンプルを注入するために予約されており、この構成では使用できません。(AN-1780)

- 以前に設定したものとは異なる LC スタックを質量分析装置で使用する場合は、以前に作成したハードウェアプロファイルを使用する場合でも、異なる LC を含むハードウェアプロファイルを有効にするために、ユーザーは LC 自動構成を再度実行する必要があります。この問題は、同じ質量分析装置で Shimadzu MIMIC 2 ドライバで制御される LC 装置をユーザーが変更した場合に発生します。MIMIC 2 ドライバを使用する LC 装置は、統合システム Shimadzu LC-20/30 Controller で起動する Shimadzu LC-20/30、Shimadzu LC-40、および ExionLC システムです。(AN-1826)

Instrument Optimization に関する変更点 (Analyst MD 1.6.3 HotFix 2 で初めて実施)

- Instrument Optimization の結果概要に関する結果ファイルが PDF 形式で生成されるようになりました。
- Microsoft Office 2013 または 2016、あるいは Office 365 がインストールされている必要があります。
- Analyst MD ソフトウェアによってインストールされたファイルのみを
D:\Analyst Data\Projects\API Instrument\Instrument
Optimization\settings フォルダーに保存してください。このフォルダーに保存しているカスタマイズ済みの csv ファイルは、非対応です。(AN-1522、AN-1551)

監査

- 機器の監査証跡の監査マップ設定では、**Audited** 列で選択している場合でも、次のイベントは Analyst MD ソフトウェアの Resolution Table または Calibration Table に関連するイベントの監査には使用されません。

- Resolution Table の置換
- Resolution Table の追加
- Mass Calibration Table と Resolution Table の変更

代わって、次の 4 つのイベントが Resolution Table または Calibration Table の追加または変更イベントの監査に使用されます。

- Resolution Table の置き換え - プロンプトなし

このイベントは、いずれかのメソッドを用いた Resolution Table の変更の監査および Resolution Table の印刷の監査に使用されます。

- Mass Calibration Table の置き換え

このイベントは、エディタのみで行われる Calibration Table の変更の監査および Calibration Table の印刷の監査に使用されます。

- Mass Calibration Table の追加

このイベントは、新しい Calibration Table が作成されたときの監査に使用されます。

- Mass Calibration Table の置き換え - プロンプトなし

このイベントは、上述以外の方法での Calibration Table の変更の監査に使用されます。

このため、機器の監査証跡に対して完全な監査マップを使用するか否かは、完全な監査マップが Calibration Table の変更に対する電子署名をトリガーするかどうかにかかわらず、どのように変更がなされたか(機器の Data Editor に、Instrument Optimization により、Analyst Access Object [AAO] を通じて、または上級者向け校正テーブルで)により決まります。ただし、Resolution Table への変更では電子署名はトリガーされません。

- wiff および対応する wiff.scan ファイルは 1 つのデータファイルとみなされ、ファイル名は同一とする必要があります。データファイルの名前の一部を変更しないでください。データファイルの一部の名前を変更すると、ユーザーがデータファイルを開こうとしたときに、Audit Trail がイベントを正しく記録できなくなります。(AN-1370)
- Analyst MD ソフトウェアの監査証跡が正しく機能するように、C:\ ドライブに十分な空き容量があることを確認します。ドライブに空きがない場合、監査証跡(atd)ファイルのサイズによっては、監査証跡の記録が 0 件と表示される場合があります。C:\ ドライブに空きがなくなったら、空き容量を確保して、監査証跡にすべての記録が表示されるようにします。(AN-1722)
- Windows 10 オペレーティングシステムを搭載したコンピュータでは、Mixed Mode で Analyst MD ソフトウェアにログオンしたユーザーがコンピュータにログオン中のユーザーと異なる場合、監査証跡レコードの印刷機能は使用できません。Analyst MD ソフトウェアが印刷に使用する Windows 10 コンポーネントには、別のユーザーが印刷できないようにする既知の制限があります。また、Integrated Mode または Single User Mode で別のユーザーとして Analyst MD ソフトウェアを開くという操作は非対応です。(AN-1358)

sMRM Calculator スクリプトの削除とインストールに関する更新情報

ソフトウェアが Analyst MD 1.6.3 から Analyst MD 1.7.3 にアップグレードされ、sMRM Calculator スクリプトがシステムにインストールされている場合は、Control Panel の **Uninstall** または **Change a Program** オプションを使ってスクリプトを削除し、Analyst MD 1.7.3 ソフトウェアのインストール後にスクリプトを再インストールしてください。スクリプトインストーラーの場所は、C:\Program Files (x86)\Analyst\Scripts\sMRM Calculator です。

Analyst - Logon Information ダイアログで Domain フィールドが使用できない

Mixed Mode のセキュリティを使用するように構成されている場合、Analyst - Logon Information ダイアログから **Domain** フィールドが削除されています。ユーザー名フィールドには、SAM (domain\username) または UPN(username@domain.com) 形式が使用できます。(AN-1564)

Scheduled MRM アルゴリズム実験の Settling Time フィールドが、Citrine システムを除くすべての質量分析装置モデルで無効になっている

Analyst MD 1.7.3 ソフトウェアの時点では、Citrine システムを除くすべての質量分析装置モデルで、Scheduled MRM アルゴリズム実験の **Settling Time** フィールドが無効化されています。その他の質量分析装置の場合、使用される値は Method Editor のユーザーインターフェースではなく、ソフトウェアで定義されます。

Analyst MD ソフトウェアのインストール後にコンピュータの日付と時刻を変更しない

Analyst MD ソフトウェアをインストールする前に、コンピュータの日付と時刻が正しいことを確認します。Analyst MD ソフトウェアのインストール後、日付と時刻を手動で変更すると、ライセンスが無効となり、Analyst MD ソフトウェアにログインできなくなります。

Review オプションは、Results Table で特定のレイアウトが使用されている場合、サポートされない

内部標準を再統合すると、その操作の監査記録の History 列の **Review** ボタンが使用できません。この機能は無効化されています。Results Table で次のレイアウトが使用されている場合、**Review** オプションはサポートされません: Summary、Analyst Group、Sample Type。対象の分析試料について、Full Layout または Analyte Layout のいずれかに変更することを求めるメッセージが表示されます。また、Peak Review がすべての分析試料の前に内部標準をレビューするように設定されている場合、Review オプションはサポートされません。この場合、Peak Review には内部標準クロマトグラムが表示され、レビュー対象である分析試料のクロマトグラムは表示されません。Peak Review Options では、**Don't review internal standards** または **Review with each analyte** のいずれかを使用します。(AN-1103)

Results Table の監査マップの Modified 日時が、Projects ノードまたは Windows フォルダーに表示される Modified 日時と異なる

Audit Trail Manager において、Results Table (Results Table ノードからアクセス)に関連付けられた監査マップに表示される **Modified** 日時が、プロジェクトノード (Projects ノードからアクセス) または Windows フォルダーに表示される **Modified** 日時と一致しない場合があります。この状態は、工場出荷時にインストールされている監査マップ (Project Information サブフォルダー内の cam ファイル) で Results Table を作成した場合に発生することがあります。この不一致を解消するには、Audit Trail Manager で Projects ノード下のプロジェクトを選択し、Settings タブを開きます。工場出荷時にインストールされている監査マップを選択して **Save** をクリックします。この時点より、監査マップで作成した Results Table の監査マップの日は、プロジェクトノードに表示される日時と一致するようになります。

この問題が適用されるのは、Analyst MD 1.6.3 ソフトウェアへのアップグレード前に存在していたすべてのプロジェクトフォルダー、および顧客が作成したプロジェクトフォルダー

(API Instrument、Default、および Example 以外のプロジェクトフォルダー) です。後者は、Analyst MD 1.6.3 ソフトウェアをインストールする際に作成されたフォルダーです。このインストールでは、既存の Analyst Data フォルダー (Analyst MD ソフトウェアが現在インストールされていない) を使用しています (Analyst MD ソフトウェアの再インストール)。Analyst MD 1.6.3 ソフトウェアを、既存の Analyst Data フォルダーと API Instrument、Default、Example の 3 つのインストールフォルダーを使用して新規インストールした場合には、この問題は発生しません。

MRM スキャンの遅延時間動作が、Scheduled MRM スキャンのものと異なっている

動的スキャン (Scheduled MRM アルゴリズム実験、DFT を用いたスキャン、IDA 実験など) を伴う期間については、遅延時間は期間継続時間よりも短くなくてはなりません。MS 測定継続時間は、**Duration** から **Delay Time** (分) を差し引いたものである一方、MS 期間の継続時間が **Duration** となります。非動的スキャン (Scheduled MRM でループされていない 1 つまたは複数の MRM 実験や IDA 基準など) のみを伴う期間においては、MS 測定継続時間は **Duration** を指す一方、MS 期間継続時間は **Duration** に **Delay Time** (分) を足したものとなります。

LC ヘルプと Analyst MD ソフトウェアのヘルプ

LC ヘルプが開いている状態で Analyst MD ソフトウェアのヘルプを開くと、LC ヘルプが自動的に閉じられます。双方のヘルプファイルを開いておく必要がある場合は、LC ヘルプファイルを開くのは、Analyst MD ソフトウェアのヘルプを開いた後にしてください。

Jasper HPLC システム用の翻訳版ヘルプファイルがカスタマーリファレンス DVD に収録

Jasper HPLC システム用の翻訳版ヘルプファイルが、カスタマーリファレンス DVD に収録されています。ヘルプを使用するには、希望の言語の Jasper ヘルプを DVD からコピーして、コンピュータのデスクトップに貼り付けてください。

LC 装置メソッドにおいて、ポンプのデフォルト停止時間が、デフォルト MS 停止時間よりも長い

SCIEX Dx ポンプ、ExionLC ポンプ、Shimadzu CL ポンプなどの、Sciex LC コントローラを介してアクティブ化される LC ポンプについては、Analyst MD ソフトウェアで測定メソッドを作成する際、ポンプのデフォルト **Stop Time** は 10 分に、Analyst MD ソフトウェアの MS メソッドでは 5 分に設定されます。LC 装置のメソッド停止時間を適切に調整する必要があります。

ExionLC 100 システムがスタンバイ状態になると電源が切れる

ExionLC 100 システムの電源は、Analyst MD ソフトウェアによって ExionLC 装置がスタンバイ状態になった時（ユーザーが **Standby** をクリックした時、またはバッチが終了して Queue Options で指定したアイドル時間に達した時）にオフになります。これは ExionLC 100 システムにおいてのみ発生します。ハードウェアプロファイルはこの時点でもアクティブになっている場合があります。ExionLC 100 システムを起動するには、Sciex LC Controller status ダイアログまたは LC システムの前面パネルからシステムの電源を手動で再びオンにします。

Analyst MD 1.7.3 ソフトウェアにおける既知の問題は以下のとおりです。

監査証跡

装置の監査証跡で、バッチを移動するとキューイベントのユーザー名列に NA が記録される

装置の監査証跡では、キューでバッチを移動したユーザーに NA が記録されます。バッチを移動したユーザーを特定するには、装置の監査証跡でバッチを移動したキューイベントの前にある、**Change Description** "User successfully logged in" の最新のセキュリティイベントのユーザー名を検索します。(AN-1347)

コンピュータの時刻を変更すると、Results Table の監査証跡タイムスタンプが変化する

コンピュータの時刻を変更すると、Results Table の監査証跡タイムスタンプにその変更が反映されます。ただし、プロジェクト監査証跡は変化しません。(AN-746)

新規インストール時に監査マップと QuantSettings.sdb が上書きされることがある

監査マップと QuantSettings.sdb が上書きされるのは、Analyst MD 1.6.3 ソフトウェアを既存の Analyst Data フォルダを使用して新規インストールする時です。これは、これらのファイルのタイムスタンプが、工場出荷時のファイルのタイムスタンプよりも前の場合に発生します。(AN-1101)

構成 - 管理 / セキュリティ

コンピュータまたは Analyst MD ソフトウェアに初めてログオンしたユーザーがバッチを送信するときにエラーが発生する場合があります

ユーザーアカウント制御(UAC)の設定が **Notify me only when apps try to make changes to my computer** またはそれ以上のレベルの場合、Analyst MD のセキュリティデータベースに登録されているもののこのコンピュータにログオンしたことがないユーザーが Analyst MD ソフトウェアに初めてログインしようすると、UAC ダイアログが開いて、新しいユーザーがユーザーレジストリにデータを入力することの許可を求めます。**Yes** をクリックして続行します。ただし、プロジェクトのドロップダウンメニューが空になり、バッチを送信しようするとエラーが発生することがあります。このエラーが発生した場合は、Analyst MD ソフトウェアを終了し、Analyst MD ソフトウェアを再度起動してください。(AN-2671)

LC システムでハードウェアプロファイルを有効にすると、ソフトウェアのウィンドウサイズが変更される場合がある

高分解能モニターを使用している場合、LC システムでハードウェアプロファイルを有効にすると、ソフトウェアのウィンドウサイズが変更される場合があります。これにより、メソッドエディタでの LC 詳細ステータス情報および LC メソッドコンテンツの表示が影響を受ける可能性があります。この問題が発生した場合は、問題が解決するまで、モニターの分解能を低く設定してください。ほとんどの場

合、分解能を 2048 × 1152 または 1920 × 1080 に落とすと、この問題は解決します。SCIEX 提供のモニターでは、1920 × 1080 の分解能を推奨します。(AN-2699)

Windows 10 オペレーティングシステムで、Analyst MD ソフトウェアのツールバーが正しく更新されない場合がある

Windows 10 オペレーティングシステムでは、Analyst MD ソフトウェアのツールバーが正しく更新されず、一部のアイコンが黒く表示されることがあります。Analyst MD ソフトウェアのウィンドウを最小化した後に最大化すると、ユーザーインターフェースが正しく更新されます。(AN-1204)

チューニング関連の権限を持たないカスタム役割のもとでは、ハードウェア構成モードへのアクセスが制限される

Analyst MD ソフトウェアでは、ハードウェア構成モードへのアクセスはカスタム役割には付与されません。カスタム役割に権限を割り当てるには、セキュリティ構成でいずれかのチューニング操作を許可する必要があります。(AN-479)

構成 - Acquisition Method Editor

Auto Equilibration オプションが機能しない

Acquisition Method Editor の **Auto Equilibration** オプションが機能していません。このオプションの選択時には、自動平衡継続時間を通常のステップ 0 平衡時間に追加してください。これにより、サンプル間の平衡時間が延びます。自動平衡継続時間は考慮に入れられず、**Run** をクリックした直後にサンプル測定が開始します。(AN-784)

コピーしたサーベイスキャン実験がディペンデントスキャンに変更されると、手動で作成した IDA メソッドを保存できない

サーベイスキャンの実験をコピーして IDA ディペンデントスキャンを作成した後、これをディペンデントスキャンに変更すると、IDA メソッドを保存できなくなります。回避策として、IDA ディペンデントスキャンは実験を追加することで作成してください。(AN-1038)

化合物依存性パラメータが質量テーブルに含まれている際に、*Scheduled MRM* アルゴリズムメソッドで複数のセルをコピーして貼り付けても機能しない

化合物依存性パラメータを含む *Scheduled MRM* アルゴリズムメソッド内で、質量テーブルから複数のセルをコピーし、(空の行の最初のセルをクリックして **Ctrl + V** キーを押すことで)コピーしたセルを貼り付けようとすると、無効な化合物依存性パラメータに関する 2 種類のエラーメッセージが表示され、コピーされたコンテンツが貼り付けられません。この問題を回避するには、個々のセルではなく行全体を選択することでコピー & 貼り付け操作を行うか、行全体を選択し、最後の空の行を選択して貼り付け操作を行います。

まれに、**Advanced** オプションを **Basic** オプションに(*Scheduled MRM* アルゴリズムメソッド内で)切り替え、質量テーブルの行を 1 つコピーして貼り付けると、To copy and paste data from one Mass Ranges table into another Mass Ranges table, the number of columns as well as the column headings in the source and destination tables must be the same. Add or remove columns from the destination table as required. (1 つの質量範囲テーブルのデータをコピーし、別の質量範囲テーブルに貼り付けるためには、ソースの列の数と列の見出しが対象のテーブルと一致している必要があります。対象のテーブルに列を適宜に追加または削除してください。)というメッセージ

が表示されることがあります。このメッセージで **OK** をクリックすると、質量テーブル内の既存の行がすべて削除されます。質量テーブルでのコピー & 貼り付け操作は単一のモードでのみ実行し、終了してからモードを切り替えるようにしてください。(AN-1061)

チューニングとキャリブレーション — Compound Optimization

Shimadzu LC を接続している場合、Compound Optimization の FIA (フローインジェクション分析) イオン源パラメータで注入の合計回数を変更しても、総サンプル量が更新されない

最適化のために 1 つ以上のパラメータを選択し、各パラメータの繰り返し注入回数を変更した場合、**Total # of injections** は正しく更新されます。しかし、合計 **Sample Volume** は更新されず、0 μL のままです。(AN-610)

Compound Optimization 時に、SCIEX Triple Quad 3200MD システムの内蔵シリンジポンプが起動しない

シリンジポンプは手動チューニングを使用することで起動できますが、外部シリンジポンプを使用することも可能です。(ST 11130)

チューニングとキャリブレーション - Instrument Optimization

API Instrument\Instrument Optimization フォルダの削除権限がない場合、Instrument Optimization は使用できません。

Analyst Data\Projects\API Instrument\Instrument Optimization フォルダの削除権限を持たないユーザーは、Instrument Optimization モジュールを使用できません。このモジュールを使用する必要があるすべてのユーザーが、このフォルダの削除権限を持っていることを確認してください。(AN-593)

チューニングとキャリブレーション - 手動チューニング

手動チューニングで *Scheduled* MRM アルゴリズム測定メソッドを使用してデータ測定中にその場で分解能を更新すると、Analyst MD ソフトウェアが測定中のままになる

Q1/Q3 分解能オプションを選択せずに手動チューニングで *Scheduled* MRM アルゴリズム測定メソッドを実行する場合、ユーザーが分解能タブでその場で分解能設定を変更すると、サンプル測定またはキューを停止できなくなります。通信を回復するには、コンピュータを起動する必要があります。この問題を回避するには、手動チューニングで *Scheduled* MRM アルゴリズム測定メソッドを実行しているときに、解像度設定を変更しないでください。(AN-1071)

どのスキャンタイプの質量テーブルも手動チューニングに貼り付けられない

Method Editor が開かれていないと、手動チューニング時に Excel シートからセルまたは行をコピーし、質量テーブルに貼り付けることができません。回避策として Method Editor を常に開いた状態にし、手動チューニングでコピーしたコンテンツを質量テーブルに貼り付けます。(AN-980)

QTRAP 4500MD システムを手動チューニングで稼働すると、アプリケーションイベントログエラーが発生する

手動チューニングモードで QTRAP 4500MD システムを稼働すると、Windows アプリケーションイベントログに「DDMSMassSpec, Process.cpp, Line 2399, EF:0x20000016=Unknown word <DPF> read」のエラーが表示されます。このエラーはシステムの動作には影響しないため、無視して構いません。(AN-265)

SCIEX Triple Quad 3200MD システムにおける単位分解能のオフセットドロップ

SCIEX Triple Quad 3200MD システムをチューニングする際には、Tuning Options Resolution タブの Offset Drop from Unit Resolution の値を適切に設定してください。

- Low Resolution グループの Offset Drop from Unit Resolution に「0.03」と入力します。
- Open Resolution グループの Offset Drop from Unit Resolution ボックスには「0.5」と入力します。

測定 - Acquisition Method Editor

最後の実験を削除すると、測定メソッドの最初の実験のパラメータ値が変更される場合がある

以下のスキャンタイプの実験が 3 つ以上あるメソッドでは、同種・混合を問わず、最後の実験を削除すると、最初の実験と削除した実験のスキャンタイプが同じかどうかにかかわらず、最初の実験の **product of, 1st precursor, 2nd precursor**、または **Loss of** フィールドのプレカーサーイオンは、削除した実験からのプレカーサーイオンに置き換わることになります。その他のパラメータや質量範囲は、元の最初の実験では不変です。以下のスキャンタイプが影響を受けます。

- EPI
- MS3
- Product (MS2)
- プリカーサーイオン (Prec)
- ニュートラルロス (NL)

(AN-2276)

IonDrive Turbo V イオン源が実験情報に記載されていなかった

IonDrive Turbo V イオン源 (Citrine システム) のイオン源タイプは、印刷された測定メソッドの印刷された実験情報に記載されていません。問題を回避するには、代わりに File Info を使用してください。(AN-1523)

測定 - メソッド / Batch Editor / Queue Manager

Analytes 表の内部標準列に、他のデータソースからの内部標準が自動入力されることがある

「定量化メソッドの作成」または定量化ウィザードのいずれかで定量化メソッドを作成する場合、Analytes テーブルがそのデータソースの Internal Standards テーブルよりも先に入力されると、Analytes テーブルの **Internal Standards** 列には別のデータソースからの内部標準が自動入力される場合があります。回避策としては、現在のデータソースに使用している内部標準がない場合

は、自動入力された内部標準の選択を解除するか、使用している内部標準がある場合は、現在のデータソースの Analytes テーブルで分析試料を選択する前に、Internal Standards テーブルで適切な内部標準を選択することです。(AN-2601)

Analyst Device Driver (ADD) ソフトウェアと併用すると、Valco バルブが正常に動作しない場合がある

ADD ソフトウェアと併用し、**Synchronization Mode** に Manual/AAO Sync を使用した場合、Valco バルブが正しく動作しない場合があります。**Synchronization Mode** に使用する **LC Sync** を使用すれば、この問題は解決する可能性があります。オートサンプラーと質量分析装置を接続するには、Sync ケーブルが必要です。(AN-1481)

Batch Editor に xls、db、xlsx 形式のバッチファイルをインポートできない

xls、db、xlsx 形式のバッチファイルをインポートしようとすると、エラーが発生し、正常にインポートできない場合があります。xlsx 形式は、インストールされている Microsoft Office が 32 ビットアプリケーションの場合のみ、**Files of type** リストで利用可能です。バッチファイルを正常にインポートするには、必ず先頭行が %header=SampleName で始まるタブ区切りの txt ファイルとして保存してください。D:\Analyst Data\Projects\Example\Batch フォルダー内のサンプルファイル DABImport.txt を参照してください。csv 形式を使用する場合は、メモ帳でファイルを編集し、1 行目が % delimiter=',',':、2 行目が % header=SampleName で始まることを確認します。(AN-1282、AN-1234)

スペースが含まれる csv または txt ファイルを Scheduled MRM プロアルゴリズムメソッドの作成用にインポートすると、インポートが停止する

(SCIEX 4500MD および Citrine システム)csv または txt ファイルから質量テーブルをインポートすることで Scheduled MRM プロアルゴリズムメソッドを作成している際に、Analyst MD ソフトウェアによってスペースが検出されると、インポートに失敗し、エラーが報告されます。この問題は、エクスポート後に csv または txt ファイルの区切り文字の間に存在するスペースを削除するか、csv または txt 形式へのエクスポート前にメソッドテーブルからスペースを削除することで回避できます。(AN-199)

ダイバーターバルブの位置が切り替わっても、内蔵ダイバーターバルブの状態が更新されない

ダイバーターバルブの位置が変わっても内蔵ダイバーターバルブの状態は更新されませんが、位置は確かに変わっています。データへの影響はありません。(AN-662)

Analyst Queue の Sample Details に、Manual/AAO Sync ではなく Manual Sync と表示される

Manual/AAO Sync を使用するメソッドで送信されたバッチのキューで、砂時計アイコンをダブルクリックしてサンプルの状態を表示すると、Sample Details ダイアログの **Sync Mode** フィールドに、**Manual/AAO Sync** ではなく **Manual Sync** と表示されます。これは表示の問題に過ぎません。データへの影響はありません。(AN-1011)

測定メソッドに上限を上回る MRM トランジションが含まれていると、最後の行を削除できない

測定メソッドに上限を上回る MRM トランジションを貼り付けると、最後の行を削除できません。行 n-1 を削除し、最後の行を編集して、削除したばかりの情報を含めます。(ST 6968)

注: SCIEX 3200MD システムでは、MRM データ取得時の最大 MRM トランジションは 300、*Scheduled* MRM アルゴリズムデータ取得時の最大 MRM トランジションは 1000 です。Citrine および SCIEX 4500MD システムでは、MRM データ取得時の最大 MRM トランジションは 1,250、*Scheduled* MRM アルゴリズムデータ取得時の最大 MRM トランジションは 4000 です。

Explore

Adobe Acrobat で表示すると、PDF ファイル形式で保存したファイル情報 (File Info) ペインが空に見える

データファイルのファイル情報ペインで右クリックメニューから **Save to File** を選択し、PDF 形式を選択して保存します。Adobe Acrobat で開くと、保存した PDF ファイルが空に見えます。ファイルの中身を見るには、PDF を Chrome や Internet Explorer で開いてください。また、ファイル情報を RTF 形式で保存し、Microsoft Word で開いた後、PDF に変換することも可能です。変換されたファイルは、Adobe Acrobat で正常に開くことができます。(AN-2670)

MS がスキャンを停止した後、補助トレースデータが Explore にリアルタイムで入力されない

補助トレースを有効にした状態で、MS のメソッド持続時間より長い LC メソッド持続時間を使用してサンプルを取得し、Explore モードでサンプルの補助データをリアルタイムで表示している場合、MS の取得停止後に補助トレースデータが入力されません。(AN-2393)

ファイル情報 (File Info) ペインが開いているときに、Show Next Sample、Show Previous Sample、Go To Sample ボタンを使用すると、LC メソッド情報が正しく表示されない場合がある

データファイルのファイル情報 (File Info) ペインが Explore モードで開かれている場合に、上部ツールバーの **Show Next Sample**、**Show Previous Sample**、または **Go To Sample** アイコンをクリックすると、LC メソッドのプロパティが正しく表示されないことがあります。LC メソッドの情報が完全に表示されない場合や、期間や実験の情報が重複する場合があります。問題が発生した場合は、ハードウェアプロファイルが有効になっている場合は無効にし、Analyst MD ソフトウェアを終了してから、コンピュータを再起動してください。この問題を回避するには、ツールバーのこれらのアイコンをクリックする前に、ファイル情報 (File Info) ペインを閉じてください。(AN-1967)

セントロイドデータが正しく表示されない

ユーザーがスキャンを平均化し、抽出イオンクロマトグラム (XIC) のステップに従って隣接するスペクトルを表示しようとする、セントロイドデータが正しく表示されません。データを正しく表示するには、セントロイドスキャンモードの代わりにプロファイルスキャンモードを使用してください。(AN-405)

定量化

Full Layout で複数の分析試料を含む Results Table で、Sample Type 列のドロップダウン選択を変更した後、他の場所をクリックせずにすぐに別のテーブルレイアウトに変更すると、Analyst MD ソフトウェアが停止したり、間違った行のサンプルタイプが変更されたりすることがあります。

Results Table が Full Layout のときにユーザーが **Sample Type** リストの項目をクリックし、その後すぐに表示する総行数を減らす別のテーブルレイアウトを選択すると、現在の行が更新されません。その結果、ソフトウェアはサンプルタイプのテキストを更新するために同じ現在の行を使用しま

ですが、その行番号が表示されなくなってしまう例外が発生するか、またはその行番号が新しいテーブルレイアウトの別の行に対応することになります。この問題を回避するには、いずれかのサンプルの **Sample Type** を変更した後に、Full Layout の Results Table の別のセルをクリックし、必要に応じて表のレイアウトを変更します。(AN-2654)

DAD データの定量化モードで、0 以上の値のみがエクスポートされた

定量化モードで、Peak Review ペインまたはウィンドウから **Save Active to Text File** を使用してデータをエクスポートした場合、DAD データのテキストファイルには正 (0 以上) のデータのみがエクスポートされます。負の数はエクスポートされません。正の数と負の数の両方を含むデータリストをエクスポートするには、Explore モードの Data List ペインで **Save As Text** を使用します。(AN-1566)

Results Table の Analyte Concentration と Calculated Concentration の列のタイトルにある単位が、最初の分析試料に限られている

Results Table で使用される定量化メソッドが、異なる分析試料に対して異なる単位を使用している場合、Results Table の **Analyte Concentration** 列と **Calculated Concentration** 列のタイトルにある単位は、最初の分析試料に限られます。すべての分析試料に使用されている単位を表示するには、Table Settings を編集して **Analyte Units** 列を表示します。(AN-1357)

定量セキュリティの設定を無効にすると、Results Table の列設定を変更したときにエラーが発生する

Security Configuration ダイアログの Roles タブにある **Access to Analyst** リストの Quantitation で、**Disable, enable and clear audit trail** 権限が無効になっている場合、ユーザーが Results Table の列設定を変更すると毎回エラーが発生するという問題がありました。テーブルの設定を変更または修正する場合は、その役割に対して **Disable, enable and clear audit trail** が有効であることを確認してください。(AN-1018)

Analyst MD Software Reporter

データファイルに追加されたサンプルについて、Analyst MD Software Reporter に正しくないオペレータが表示されることがある

追加されたサンプルを提出した現在のユーザーとは異なるユーザーが取得した既存のデータファイルにサンプルが追加された場合、Operator タグには (レポートテンプレートに含まれている場合)、追加されたサンプルを実際に提出したユーザーではなく、追加されたサンプルのデータファイルを最初に作成したユーザーの名前が表示されます。(AN-1612)

Reporter ソフトウェアでレポートを作成する際に削除権限が要求される

Reporter ソフトウェアでレポートを使用してレポートを作成する際、あるいはレポートをデータフォルダーに保存する際には、該当するデータフォルダーの削除権限が必要となります。(AN-358)

インストーラー

Analyst MD ソフトウェアのインストール時に DCOMPerm.dll に関するメッセージが表示されることがある

Analyst MD 1.7.3 ソフトウェアのインストール時に、「Cannot move DCOMPERM.dll while installing DCOMPerm.Win32 errorcode 262272.Please contact your software manufacturer. (DCOMPerm のインストール時には DCOMPERM.dll を移動できません。Win32 エラーコード 262272。ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。)」のメッセージが表示される場合があります。メッセージ内の **OK** をクリックして、ソフトウェアのインストールを続行してください。CTC PAL のスクリプトが原因になっている可能性があります。CTC PAL オートサンプラーを使用する場合は、インストール後に CTC PAL オートサンプラーのハードウェアプロファイルが有効になるかどうかをテストします。不可能であれば、SCIEX サポート (sciex.com/request-support) までお問い合わせください。そうでなければ、ソフトウェアは意図したとおりに機能します。(AN-767)

周辺装置

ExionLC 2.0 シリーズ装置

Analyst MD ソフトウェアの ExionLC 2.0 システムステータスアイコンが赤であるにもかかわらず、準備完了(Ready)と表示される

ExionLC 2.0 システムでエラーが発生した場合、Analyst MD ソフトウェアの LC ステータスアイコンは赤色になりますが、LC ステータスとして準備完了(Ready)状態が表示される場合があります。復旧するには、ハードウェアプロファイルを無効にしてから、再度有効にしてください。撮影を開始する前、特にシステムがスタンバイ(Standby)状態になった後は、検出器のランプが点灯していることを確認してください。(AN-1966)

LC システムに検出器が搭載されている場合、Analyst MD ソフトウェアでは、ExionLC 2.0 システムがスタンバイ(Standby)状態にあるにもかかわらず、待機(Wait)状態として表示される

ExionLC 2.0 システムに DAD または Multiwavelength Detector が搭載されている場合、LC システムと質量分析装置がスタンバイ(Standby)状態になった後、Analyst MD システムの ExionLC 2.0 ソフトウェアステータスアイコンは黄色に変わりますが、LC システムの状態は待機中(Wait)と表示されます。これは、システムがスタンバイ(Standby)状態のときに検出器のランプが消灯するためです。これはステータス表示の問題で、システムの動作には影響しません。(AN-1968)

ExionLC 2.0 洗浄システムの設定でバルブ洗浄を選択している場合、メソッドの保存ができない

ExionLC 2.0 洗浄システムの設定でバルブ洗浄を選択すると、取得メソッドが正常に保存されず、「取得メソッドをファイルに書き込む際にエラーが発生しました！コピーメソッドは失敗しました」というエラーメッセージが表示されることがあります。この問題が発生した場合は、次の操作を行います。

1. ハードウェアプロファイルを無効化して、Analyst MD ソフトウェアを終了します。
2. Configuration_Default.xml ファイル
(C:\ProgramData\ExionLC2.0\ConfigurationsExionLC2)とフォルダー
(C:\ProgramData\SCIEX)を削除するか、名前を変更します。

3. コンピュータを再起動します。
4. ExionLC 2.0 システムモジュールをすべてオフにしてから、再びオンにします。
5. 新しいハードウェアプロファイルを作成し、ExionLC 2.0 システムを再設定して、アクティベートします。(AN-2246)

ExionLC 2.0 の圧カトレースで、データポイントが 2 つごとに複製される

ExionLC 2.0 の圧カトレースでは、データポイントが 2 つごとに複製されます。これは、圧力値をパブリッシュレート (1 Hz) の半分の周波数 (0.5 Hz) で収集するためです。また、すべての補助トレースにおいて、時刻 0.0 分の最初のデータポイントは、通常、0.0 分より遅い時刻に最初の実際のポイントが収集されるため、人為的なものとなっています。(AN-2638)

Jasper システム、ExionLC システム、Shimadzu CL、および Shimadzu LC システム

手動チューニング時に、Jasper 装置、ExionLC 装置、または Shimadzu CL LC 装置に対して LC メソッドを選択すると、ポンプ、オートサンプラー、システムコントローラのいずれのパラメータも表示されない

手動チューニングモードで、Jasper システム、ExionLC システム、または Shimadzu CL LC システムを含むハードウェアプロファイルに対して LC メソッドを選択すると、(Pump、Autosampler、System Controller タブの右側にある) 予定表が表示されなくなります。この問題を回避するには、Acquisition Method Editor で測定メソッドを作成／保存してから、これを手動チューニングモードで開いてください。(AN-644)

エラーを伴う LC メソッドを保存したが開けない

Jasper、ExionLC、または Shimadzu CL LC システムを含む測定メソッドを保存する際に、LC パラメータが許容範囲外である場合、間違った値に関するエラーが Analyst MD ソフトウェアに表示されますが、メソッドの保存は可能です。ただし、このメソッドを閉じた後はロードできないため、以後の測定には使用できません。(AN-678)

Analyst MD ソフトウェアのリモート機器の状態機能を使用している時に、接続済みの Jasper、ExionLC、または Shimadzu CL LC システムの詳細状態が表示されない

リモート機器の状態を表示した際に、接続済みの LC システムの詳細状態は空白として表示されず。(AN-686)

Jasper 装置、ExionLC 装置、Shimadzu CL LC 装置: Analyst MD ソフトウェアの新規インストール後、またはコンピュータの再起動後に、Configuration UI ダイアログが後景 (開いている他のあらゆるウィンドウの一番奥) で開く場合がある

Jasper システム、ExionLC システム、または Shimadzu CL LC システム向けのハードウェアプロファイルの作成時に **Configure** ボタンをクリックすると、Configuration UI ダイアログが後景 (他のあらゆるウィンドウの一番奥) で開く場合があります。これは、インストール後またはコンピュータの再起動後に発生します。**Configure** ボタンをクリックした後に ConfigUIDialog を前景に移動させるには、ConfigUIDialog が見えるようになるまで他の開いているアプリケーションをすべて最小化してください。今後は、**Configure** をクリックするたびに Configuration UI ダイアログが常に前景で開きます。(AN-717)

新規作成または編集したハードウェアプロファイルの Jasper、ExionLC、Shimadzu CL LC 構成が、Jasper 装置、ExionLC 装置、または Shimadzu CL LC シリーズ装置のいずれかを含む既存のハードウェアプロファイルすべてに適用される

Jasper 装置、ExionLC 装置、Shimadzu CL LC 装置のいずれかが含まれるハードウェアプロファイルの構成を修正した場合、またはこれらの装置のいずれかが含まれる新規ハードウェアプロファイルを作成した場合、これらの装置のいずれかが含まれる既存のハードウェアプロファイルもすべて自動的に変更されます。高速 LC、psi 単位、リレー、同期、システム圧の最大値などの構成オプションはすべて、編集または新規作成したハードウェアプロファイルがアクティブ化されていなくても、Jasper 装置、ExionLC 装置、Shimadzu CL LC 装置のいずれかが含まれる他のすべてのハードウェアプロファイルに保存されます。たとえば、バイナリーグラジェント SCIEX Dx ポンプが含まれたアクティブハードウェアプロファイルが存在する状態で、アイソクラティック SCIEX Dx ポンプが含まれるハードウェアプロファイルを作成した場合、たとえこのプロファイルをアクティブにしなくても、アクティブハードウェアプロファイルもアイソクラティックとなります。(AN-943)

ExionLC オートサンプラーの機内リンス関連の問題

ExionLC 装置を用いた測定メソッドにおいて、Internal Rinse settings セクションで 1、2、3 のいずれかのリンス溶媒が選択されると、機内リンスが実行されません。回避策として、4 の溶剤を選択して機内リンスを実行してください。ただし、リンス時間の追加分を補正するため、リンス量を減らす必要があります。また、リンスプロセスを開始するには、リンスシーケンスで以下の設定を使用してください: R0->None->None->R0。この問題は、リンスシーケンスの開始または終了が None に設定されている場合は生じません。(AN-1086)

ExionLC PDA で全サンプルを 1 つのデータファイルに取り込むと、取り込みが断続的に失敗することがある

ExionLC PDA を使用して、全サンプルを 1 つのデータファイルに取り込んだ場合、特にデータファイルが大きいと、取り込みが断続的に失敗することがあります。この問題を回避するには、各サンプルを異なるデータファイル(複数の wiff ファイル)に取り込んでください。(AN-1823)

LC システムに室温センサーがない場合、室温トレースが書き込まれる

ExionLC および Shimadzu LC システムで補助トレースを有効にした場合、LC システムに室温センサーがない時は、室温トレースがデータファイルとともに書き込まれ保存されます。トレースは 650 °C などの温度を誤って表示することがあります。(AN-2559)

手動チューニングで、統合システム Shimadzu LC-20/30 Controller でアクティブ化した Shimadzu LC-20/30 装置、および Shimadzu LC-40 装置の LC メソッドを選択した場合、モジュールのオプションが一部表示されない

統合システム Shimadzu LC-20/30 Controller でアクティブ化した Shimadzu LC-20/30 装置を含むハードウェアプロファイル、または Shimadzu LC-40 装置を含むハードウェアプロファイルの手動チューニングで LC メソッドを選択した場合、モジュールウィンドウの右側から以下のオプションがなくなります。

- Time Program オプション (Acquisition Method Editor で Time Program オプションが有効になっているすべてのモジュールで)
- Pretreatment オプション (Autosampler モジュールで)
- Pump モード切り替えオプション (B. GE と ISO の切り替え、LC-40 Pump モジュールで)

- Autopurge オプション (LC-40 Pump モジュールで)

この問題を回避するには、Acquisition Method Editor で測定メソッドを作成 / 保存してから、これを手動チューニングモードで開きます。(AN-1812)

SIL-20AC 前処理オートサンプラーが Analyst MD と連動しない

SIL-20AC 前処理オートサンプラーが使用されている場合、高度なインジェクタ洗浄プログラムである I.Rinse コマンドは機能しません。この問題を回避するには、Shimadzu AAO プラグインのバージョン 5.4 を使用してください。(AN-468)

平衡中に Standby を選択しても Shimadzu スタックがスタンバイ状態にならない

Shimadzu スタックは、平衡期間中に Standby を選択してもスタンバイ状態になりません。質量分析装置はスタンバイ状態になりますが、ポンプとオープンは作動を続けます。スタック内の Shimadzu 装置をスタンバイ状態にするには、Ready を押した後、平衡中に **Standby** を押してください。(AN-663)

CTC PAL / Leap 装置

CTC オートサンプラーに使用しているスタックタイプが統一されていない場合、Locations タブに、トレイタイプまたはスタックが正しく表示されない

使用している CTC オートサンプラーのスタックタイプが統一されていない場合、Analyst MD 1.7.3 ソフトウェアの Locations タブにトレイまたはスタックが正しく表示されないほか、バイアルを適宜に選択できません。これが原因で、Locations タブでバッチを作成できません。この問題を回避するには、Batch Editor の Sample タブで **trays and sample locations** を選択します。(AN-381)

Agilent 装置

統合型 Agilent LC が、ポンプの停止時間ではなく、質量分析装置の停止時間で LC メソッドの実行を停止する

質量分析装置のメソッド期間が Agilent LC のメソッド期間より短い場合、サンプル測定と LC 実行の両方が質量分析装置の停止時間で停止します。この問題を回避するには、質量分析装置と LC メソッドの停止時間を同じにして、測定メソッドを設定します。(AN-2657)

プログラムとユーティリティ

A

以下のユーティリティは、Analyst MD ソフトウェアと一緒に
C:\Program Files (x86)\Analyst\Bin フォルダーにインストールされます。

表 A-1 : ユーティリティ

プログラム	説明
Translat.exe	Agilent のデータファイルを Analyst MD ソフトウェアのデータ形式に、Macintosh のライブラリファイルを Analyst MD ソフトウェアのライブラリ形式に変換するためのユーティリティ。SQL Server 上にデータベースを作成することができます。Translat.exe は、Agilent のデータに対してネットワーク上で動作しません。
CFR_FileCheck.exe	インストール適格性試験を再実行するためのユーティリティ。Windows の Start メニューからアクセスできます。

お問い合わせ先

お客様のトレーニング

- 北米: NA.CustomerTraining@sciex.com
- ヨーロッパ: Europe.CustomerTraining@sciex.com
- ヨーロッパおよび北米以外: sciex.com/education

オンライン学習センター

- [SCIEX Now Learning Hub](#)

SCIEX サポート

SCIEX およびその代理店は、十分に訓練を受けた保守/技術専門要員を世界中に配置しています。システムまたは起こり得る技術的問題に関するご質問にお答えします。詳細な情報については、SCIEX web サイト (sciex.com) を参照するか、以下の連絡先までお問い合わせください。

- sciex.com/contact-us
- sciex.com/request-support

サイバーセキュリティ

SCIEX 製品のサイバーセキュリティに関する最新のガイダンスについては、sciex.com/productsecurity を参照してください。

ドキュメント

このバージョンのドキュメントは、以前のすべてのバージョンのドキュメントに優先します。

このドキュメントを電子的に閲覧するには Adobe Acrobat Reader が必要です。最新バージョンをダウンロードするには、<https://get.adobe.com/reader> にアクセスしてください。

ソフトウェア製品のドキュメントについては、ソフトウェアに付属のリリースノートまたはソフトウェアインストールガイドを参照してください。

ハードウェア製品のドキュメントを検索するには、システムまたはコンポーネントのドキュメント DVD を参照してください。

注: このドキュメントの無料の印刷版を請求するには、sciex.com/contact-us までお問い合わせください。
